

千葉市美術館  
プレスリリース

まさに浮世絵の教科書！  
珠玉のコレクションで  
葛屋重三郎の仕事を含む浮世絵史を総覧



開館30周年記念 江戸の名プロデューサー 葛屋重三郎と浮世絵のキセキ

会 期 2025年5月30日(金)ー7月21日(月・祝)  
開館時間 10:00ー18:00(金・土曜日は20:00まで)※入場受付は閉館の30分前まで  
休 室 日 月曜日(7月21日は開室)  
観 覧 料 一般1,500円(1,200円)、大学生1,000円(800円)、小・中学生、高校生無料  
※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金 ※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:32706)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて5月29日まで販売(5月30日以降は当日券販売)。  
◎ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18:00以降は観覧料半額  
◎本展チケットで7階「開館30周年記念 日本美術とあゆむー若冲、蕭白から新版画まで」,5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。  
主 催 千葉市美術館

概要

吉原に生まれ、江戸の浮世絵を語るうえで欠かせない存在となった葛屋重三郎(1750ー97)。葛屋が版元として活動したのは、安永(1772-81)から寛政(1789-1801)という時代であり、多色摺の錦絵が大きな発展を遂げた時期とほとんど重なっています。なかでも天明から寛政にかけての時期は、のちに「浮世絵の黄金期」といわれ、いっそう奥深く、色彩の繊細な浮世絵が生み出された重要な時代でした。葛屋もまた黄金期を盛り立てた人物のひとりといえるでしょう。

西村屋与八や鶴屋喜右衛門などといった老舗の版元がひしめくなか、葛屋は新興の版元として出版界に彗星のごとく現れます。斬新な作品を次々に世に出すことで喜多川歌麿(?ー1806)を人気絵師へと育てあげた功績は、まさに偉業といえるでしょう。また東洲斎写楽(生没年不詳)の発掘は、その後の浮世絵の評価を大きく変えることになります。

千葉市美術館の開館30周年を記念する本展では、浮世絵の始祖で房州出身の菱川師宣(?-1694)にはじまり、多色摺の錦絵を創始した鈴木春信(1725?-70)、喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎(1760-1849)、渓斎英泉(1791-1848)、歌川広重(1797-1858)にいたるまでの浮世絵の歴史をたどりつつ、葛屋が生まれた時代から華やかな黄金期の浮世絵への展開、そして“世界のUkiyo-e”へと進化していくさまをご紹介します。千葉市美術館の珠玉の浮世絵コレクションを中心に、美人画や役者絵の名品の数々をどうぞご堪能ください。

記者レクチャー・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。  
展示会の見どころを担当芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。  
2025年5月29日(木)14:00～(13:30開場)／8階展示室にて  
参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXにてご連絡ください。

**本展の見どころ****●開館 30 周年の千葉市美術館と浮世絵**

千葉市美術館は1995年11月3日に開館し、今年で開館30周年を迎えます。美術館設立のきっかけとなったのは、幕末の浮世絵師 溪斎英泉(1791-1848)の錦絵を集めた今中コレクションを1985年に千葉市が入手したことでした。このコレクションを契機に、千葉市美術館の収集における浮世絵は重要な位置を占め、国内でも有数の浮世絵コレクションをもつ美術館として知られています。展覧会としても、大英博物館と共同で企画した開館記念展の「喜多川歌麿展」以来、「菱川師宣展」(2000年)、「鈴木春信展」(2002年)、「鳥居清長展」(2007年)、「溪斎英泉展」(2012年)、「初期浮世絵展」(2016年)、「鳥文斎栄之展」(2024年)など数多くの浮世絵展を開催してきました。

**●まさに浮世絵の教科書!コレクションを中心とした名品で浮世絵史を総覧**

本展では葛屋重三郎(1750-1797)の仕事に焦点を当てながら、初期浮世絵から黄金期、葛屋亡き後の展開までを紹介するものです。浮世絵の祖で房州(現現南町保田)出身の菱川師宣(-1694)にはじまり、鈴木春信(-1770)、喜多川歌麿(-1806)、東洲斎写楽(生没年不詳)、歌川広重(1797-1858)など、誰もが見たことのある有名作品を含む約160点を一堂に展示。千葉市美術館の質の高い浮世絵コレクションにより実現できる、浮世絵の教科書ともいえる内容で、浮世絵の歴史をお楽しみいただきます。

**●喜多川歌麿による初期肉筆画も初公開**

本展は千葉市美術館のコレクションを中心としたものですが、特別出品として、近年発見された喜多川歌麿による肉筆画《祭りのあと》(天明期、個人蔵、アンリ・ヴェヴェール旧蔵)が本展で初公開されます。肉筆画の少ない歌麿のなかでも、天明期のものはさらに珍しく、貴重なものです。

**■大河ドラマでも注目の葛屋重三郎とは**

今年の大河ドラマの主人公でもある葛屋重三郎(1750-1797)は、江戸吉原で生まれ、貸本と小売を主とした小さな本屋を営んでいました。初めて出版を手掛けた安永3年(1774)から10年も経たない天明3年(1783)に、老舗の版元が軒を連ねる日本橋に進出し、斬新な作品を次々に世に送り出しました。なかでも、喜多川歌麿(-1806)を人気絵師として育て上げ、東洲斎写楽(生没年不詳)を発掘したことは、その後の浮世絵の評価を大きく変えることとなりました。千葉市美術館では葛屋が手掛けた版本、錦絵を所蔵しており、本展ではそのうちの20点を展示します。



喜多川歌麿『潮干のつと』寛政元年(1789)頃 千葉市美術館蔵



(左)鈴木春信《(三十六歌仙)藤原仲文》明和4-5年(1767-68)頃 千葉市美術館蔵 (6/22まで展示)



(右)喜多川歌麿《祭りのあと》天明期 個人蔵



葛飾北斎《雷獄三十六景 神奈川沖浪裏》天保2-4年(1831-33)頃 千葉市美術館蔵

**同時開催****日本美術とあゆむ一若沖、蕭白から新版画まで**

会場 7階企画展示室

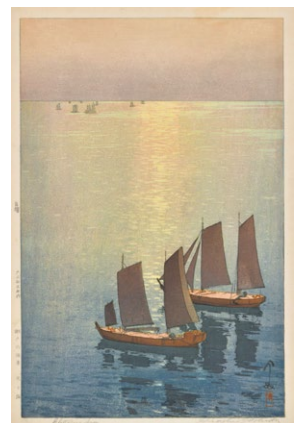
観覧料 一般 1,200円 大学生 700円 高校生以下無

〔葛屋重三郎と浮世絵のキセキ〕ご観覧の方は無料

千葉市美術館では、開館以来、江戸時代～近代の絵画や版画の収集・調査研究を継続し、その成果を展覧会に反映させてきました。開館30周年という節目の年を祝う本展では、これまで開催してきた各展覧会、作品収集の軌跡なども紹介しつつ、当館コレクションのハイライトをご覧ください。お馴染みの名品から、知られざる逸品まで。コレクションをより深く知り、楽しんでいただく展覧会です。



(左から)伊藤若沖《鸚鵡図》宝暦(1751-64)後期～明和(1764-72)頃/伊藤若沖『乘輿舟』(部分)明和4年(1767)頃/曾我蕭白《獅子虎図屏風》(部分)宝暦期(1751-64)頃/吉田博《光る海 瀬戸内海集》大正15年(1926) すべて千葉市美術館蔵



## ■ 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。  
ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。  
画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1 東洲斎写楽《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》  
寛政6年(1794) 千葉市美術館蔵



2 喜多川歌麿《当時三美人 富本豊ひな 難波屋きた 高しまひさ》  
寛政5年(1793) 千葉市美術館蔵



3 喜多川歌麿『画本虫撰』天明8年(1788) 千葉市美術館蔵



4 喜多川歌麿『潮干のつと』寛政元年(1789)頃 千葉市美術館蔵



5 鈴木春信《(三十六歌仙) 藤原仲文》  
明和4-5年(1767-68)頃 千葉市美術館蔵  
(6/22まで展示)



6 葛飾北斎《富士三十六景 神奈川沖浪裏》  
天保2-4年(1831-33)頃 千葉市美術館蔵



7 歌川広重《名所江戸百景 亀戸天神境内》  
安政3年(1856) 千葉市美術館蔵

## 広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

### ■写真ご使用に際してのお願い

- \* 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- \* 写真のご利用は、1申込について1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- \* 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- \* 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- \* お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。  
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館  
広報担当 磯野 行  
E-mail : isono@ccma-net.jp  
FAX : 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

### ■画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

- 1 東洲斎写楽《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》寛政6年(1794) 千葉市美術館蔵
- 2 喜多川歌麿《当時三美人 富本豊ひな 難波屋きた 高しまひさ》寛政5年(1793) 千葉市美術館蔵
- 3 喜多川歌麿『画本虫撰』天明8年(1788) 千葉市美術館蔵
- 4 喜多川歌麿『潮干のつと』寛政元年(1789)頃 千葉市美術館蔵
- 5 鈴木春信《(三十六歌仙)藤原仲文》明和4-5年(1767-68)頃 千葉市美術館蔵(6/22まで展示)
- 6 葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》天保2-4年(1831-33)頃 千葉市美術館蔵
- 7 歌川広重《名所江戸百景 亀戸天神境内》安政3年(1856) 千葉市美術館蔵

### ■「江戸の名プロデューサー 蔦屋重三郎と 浮世絵のキセキ」プレゼント用招待券申込 (ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組10名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先

ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311 (代表) /043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail isono@ccma-net.jp

HP <https://www.ccma-net.jp/>

開館  
30周年  
記念  
江戸の  
名プロデューサー  
葛屋重三郎と  
浮世絵の



記者レクチャー・内覧会 2025年5月29日(木) 14:00～ 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。  
展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

[タイムスケジュール(予定)]

13:30～ 記者レクチャー会場へのエレベーター稼働・開場

14:00～ 担当学芸員より展覧会についてご説明

14:15頃～18:00 自由内覧

16:30～ レセプション(1階さや堂ホールにて)

参加ご希望の方は下記項目にご記入の上、

**E-mail: [isono@ccma-net.jp](mailto:isono@ccma-net.jp) または FAX: 043-221-2316**

までご返信ください。

ご芳名

---

ご所属

---

貴媒体名

---

お電話番号

---

E-mail

---